

< 認知症対応型共同生活介護用 >

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4670103300
法人名	有限会社 ピースアンドハーモニー
事業所名	グループホーム ローズガーデン
訪問調査日	平成 19 年 8 月 24 日
評価確定日	平成 19 年 10 月 23 日
評価機関名	特定非営利活動法人 社会保障制度活用支援協会

項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

作成日 平成19年 9月5日

【評価実施概要】

事業所番号	4670103300
法人名	有限会社 ビース アンド ハーモニー
事業所名	グループホーム ローズガーデン
所在地	鹿児島県鹿児島市下荒田二丁目34-15 (電話) 099-213-0033

評価機関名	特定非営利活動法人 社会保障制度活用支援協会
所在地	鹿児島県鹿児島市城山一丁目16-7
訪問調査日	平成19年8月24日 評価確定日 平成19年10月23日

【情報提供票より】(19年7月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 15 年 8 月 1 日
ユニット数	2 ユニット 利用定員数計 18 人
職員数	14 常勤 8 人, 非常勤 6 人, 常勤換算 8 人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り
	3 階建ての 2 階 ~ 3 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45,000 円	その他の経費(月額)	無	実費 円
敷金	有(円)	無		
保証金の有無(入居一時金含む)	有(円)	有りの場合償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり	1,000 円		

(4) 利用者の概要(7月5日現在)

利用者人数	18 名	男性	0 名	女性	18 名
要介護1	0 名	要介護2	2 名		
要介護3	10 名	要介護4	4 名		
要介護5	1 名	要支援2	1 名		
年齢	平均 84 歳	最低	68 歳	最高	93 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	有馬胃腸科外科医院・竹迫歯科・坂元眼科医院
---------	-----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

鹿児島県中心市街地の交通の便利な場所にピンクの3階建ての目立つ建物がグループホーム ローズガーデンである。1階は地域との交流の場としており、2,3階が利用者の生活の場となっている。屋上は家庭菜園があり、桜島をはじめ市内を一望できて見晴らしが良い。暖かく効率的に建てられたビルである。入居者は清潔で明るく安全で家庭的な雰囲気の中で、職員の優しい気配りと笑顔に見守られながら、バランスの良い美味しい食事と質の高い支援を受けている。協力病院が近くにあり、医療面も安心である。更に利用者が幸せだと感じるような、他のグループホームのモデルとなるよう日々努力している。今以上に地域との連携を深め貢献できる事業所となることを期待する。

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	評価の意義を理解しており、話し合って改善している。理念の明示は利用者に毎月ホーム便りで知らせている。利用者の権利義務は重要事項説明書で説明している。緊急時の手順は実技研修を増やしている。相談苦情の窓口の明示もなされている。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	全員で話し合って評価のねらいや活用方法を検討し、サービスの質の向上に向けて活かしていこうとする厳しい姿勢で取り組んでいる。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	6月に1回開催しており8人のメンバーで内容は事業所の実状報告をして理解を深めている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	毎月ホーム便りで利用者の生活や健康状態を報告しており、面会時に家族と話し合っている。家族会・運営推進会議でも意見を聞いて運営に反映している。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目	施設の中に地域との交流の場所があり、町内会長や中学生、子供会との連携がある。近くの公園や中学校、ストアで近所の人たちとの交流をしている。

評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
		地域密着型サービスとしての理念			
1	1	地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	職員全員で考えた理解しやすく実践できる理念で地域への出入り口を考慮した事業所独自の理念である。		
		理念の共有と日々の取り組み			
2	2	管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝申し送り時、全員で唱和している。日々のケアの中で確認し話し合っている。		利用者一人ひとりの個性に合わせた支援のあり方が、徐々に理解できるようになり、成果がみられてきている。
2. 地域との支えあい					
		地域とのつきあい			
3	5	事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	施設長が町内の民生委員として活躍しており、施設の1階を交流の場として開放している。町内会長・地域の人々・中学生、子供会との交流がある。行事やふれあい給食にも参加している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
		評価の意義の理解と活用			
4	7	運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義と活用について職員全員で検討しており、介護サービスの質の向上に取り組んでいる。		
		運営推進会議を活かした取り組み			
5	8	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	6月に開催しており、メンバーは職員、家族の代表、民生委員、町内会長等8名で、内容は事業所からの報告をして理解を深めている。		原則は2ヶ月に1回の開催となっており、幅広い人材による質問意見、要望等の意見交換の場となるような会議として事業所への理解と協力を求めることが望ましい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	事業所の事務手続きに市町村の窓口を利用している。婦人学級の講師や文化祭のすこやか祭りに参加している。		地域密着型サービスを意識して市町村との積極的な連携をし事業所の運営や課題解決に向けた協働関係をつくるのが望まれる。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月ホーム便りを発行して日々の暮らしぶり(写真も)や健康状態を報告している。金銭出納の報告もある。職員の異動は面会に来た人に知らせている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時、相談や意見を聞いており、サービスの向上に反映させている。意見箱を設置し家族会・運営推進会議にも出席して意見を出しやすくしている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	新任者には先輩職員と一緒に支援する体制を作っており、利用者へのダメージを最小限にする配慮をしている。(3月から4月にかけて異動があり新卒者・経験者を採用している。)		利用者の重度化に伴う介護の負担があり離職者があったが、新任者に有望な人材を採用して徐々に成果が見えてきている。これからの活躍を期待する。
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月1回の勉強会をしており、外部の研修は報告会をしている。先輩職員が講師となり研修している。		必要に応じて勉強会をしているが、全員で話し合って年間教育計画を作成し担当者を決めてレベルにあった効果的な体制作りをし質の向上と、やる気を起こすようにすることが求められる。
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会に所属しており、年2～3回の研修や交流会があり、管理者が出席している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	施設や病院から直接の入所が多く、注意深く接しており、安心して他の利用者や職員に馴染んでもらうように家族と相談しながら支援している。		やむを得ず直接入所した場合の心身のダメージを配慮し、職員、家族その他の利用者、紹介した施設との話し合いをして、早く馴染める工夫が求められる。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	一緒に生活することでできること、知っていることを認め、一緒に行動して教えてもらう姿勢で接している。		業務の中で利用者ができることを常に意識して声かけをし共に行動し支えあう関係作りを更に深めて利用者の喜び機会が増えることが期待される。
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	一人ひとりの思いや希望をアセスメントしており、本人意向に添うように心がけている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	日課の中で一人ひとりの思いや特徴を話し合いながら、多くの人々の意見を取り入れて介護計画を作成している。		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	6ヶ月～1年毎の見直しを定期的に行っている。状況の変化に応じて随時見直しをいっている。		基本的にはできているが安定していても月に1回程度は新鮮な目で話し合い、気づきやアイデア、予防等を取り入れた介護計画の見直しが望ましい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	臨機応変に要望に応じた通院や送迎等の支援はしている。		地域密着型サービスの多機能性を活かして介護保険サービス(医療連携体制)や自主サービスの支援をして利用者の要望に応じた体制づくりと活用方法が求められる。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医院による医療がいつでも受けられるようになっており、家族や本人にも説明している。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化の傾向にあり家族、本人、主治医との話し合いをしている。		できるだけ早い時期から繰り返し話し合い、その都度、意思確認書を作成して、家族、本人、職員、医師、看護師等と今後共有することが望ましい。
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人ひとりのプライバシーに配慮した声かけや誘導がみられた。個人情報の取り扱いも慎重である。		予想もしない行動や反応がみられることが特徴であることを再認識して特殊な事例等の話し合いをして利用者一人ひとりに応じた支援方法の検討が求められる。
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の日課の中で本人に合せたゆとりの支援が行われている。(起床・入浴・食事・就寝・昼寝等)		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	栄養士の指導の下に作られた献立に利用者の好み職員の手腕が加わって美味しく作られる料理である。利用者には準備・味見・片付け等を手伝ってもらっている。職員も一緒に食事をし支援している。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	日曜日以外の毎日午前中が入浴日となっており、希望があれば毎日でも入浴できる。拒否する人に声かけや更衣清拭等をしている。浴室は家庭的で清潔、安全性の配慮がある。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	日々の暮らしを楽しめるようにサポートしている。金魚の餌やり、ベランダの花の手入れ、買い物、絵画、裁縫、三味線、歌、屋上菜園の手入れ、洗濯物たたみ等。できない人も見る、聞くで気晴らしになっている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	屋上に菜園があり、桜島、中央駅の観覧車、県庁、中学校、人や車の動きが見られて外出気分になる。ストアへ買い物、公園へ散歩、花見、ふれあい給食など希望により支援している。		
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室が2階3階になっており、エレベーターで下りるようになっており、外へ出そうな様子ときは声かけや見守りをしている。1階出口はオートロックでインターホーンで対応できる。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年1回の避難訓練で消火器の使い方、避難方法、経路の確認等を実施しており、緊急時連絡網も作成している。又、町内会長の訪問も度々あり、話し合っている。		非常事態が発生したことを想定して自主防災組織を作り、定期的に避難訓練を計画し、実施することが望ましい。また、非常用の飲料・食料の備蓄があれば安心である。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	協力病院の栄養士の指導で献立を作成しており、栄養バランスも良い。カロリーは1500～1700kcal/1日で、個人の状態に応じた配慮がある。水分は1日2000mlを目標にポカリスエット・牛乳・お茶等の準備がある。		
hi					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は清潔で、安心して移動できる床や手摺りがあり、明るく居心地のよい工夫がある。畳の部屋、ベランダ、ソファ、対面式台所、トイレ、浴室と使いやすく安全への配慮がある。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	好みの布団一式、目覚まし時計、写真、ぬいぐるみ等馴染みのものがあり、使い慣れたものが置いてある。		